

年間第 34 主日 王であるキリストの祭日の説教

金 大烈 神父 2011 年 11 月 20 日 (日)

《天国へ入るための試験問題の答え ～もっとも小さくされている人々に仕える～》

今日のような福音(マタイ 25・31 - 46)は、言葉どおりに考えても十分に理解できるものです。

数え切れないほどこの箇所を読みましたが、昨日は少し心に痛みを感じさせるものがありました。

私が一人で司祭館にいる時に、チャイムの鳴ることがあります。昼でも夜でも関係なく、相手の都合で鳴らされます。出て行きやすい時は、チャイムが鳴ったらすぐに行ってみて、要件を聞きます。多くの場合は、「お腹がすいたので、食事をください。」という内容です。そのような時には、ある物を渡したり、インスタントラーメンを作ってあげたりします。それもない時には、教会の規則では禁止されていますが、ラーメンでも食べるように言って、1000 円でも 2000 円でも袋に入れて渡します。しかし、寝ている時や体の調子が悪い時、真夜中などに、「お腹がすいたので助けてください。」と言われたら、イライラしてしまいます。そして考える前に、「今は無理です。別の時に来て下さい。」と冷たい反応を見せたことがあったことを昨日この福音を読んで思い出しました。

施しや手を伸ばすことは、気分が良ければいくらでもできます。気持ちの良い時には、気前よく何でもできます。雰囲気流されて何でもできます。しかし、調子が悪い時や誰にも接したくない時に手を伸ばす招きがあったら、やはり逃げたくなります。皆様も同じではないでしょうか。

昨日この福音を読みながら、反省くらいではなく、悔い改めました。これからは、真夜中の 2 時、3 時に起こされて、「食べ物ください」と言われても、ラーメンでもあげようと考えました。

しかし、これは絶対に容易なことではありません。だからこそ、イエス様はおっしゃっているでしょう。

さて、私たちはどの国に属していますか。どの国の民ですか。もちろんここには、日本、ブラジル、韓国、ベトナム、ペルー、ボリビア、フィリピンなど、いろいろな国の人がいます。しかし、私たちの本当の国は、神様のみ国です。神様が約束された国です。みんな同じ国籍なのです。私たちは同じ国の民ですが、国には王がいます。その王はキリストです。民は、当然王に従うべき、仕えるべきです。では、私たちは王様のみ旨やみ言葉にきちんと従っているのでしょうか。しっかり仕えているのでしょうか。いつの間にか、自分でも知らないうちに別のものが王になってしまい、その王に仕えていませんか。『別のもの』というのは、お金や権力、名誉、いろいろな贅沢なもの、そして、何か夢中になってしまっているものです。それらの『別のもの』に仕えるために、全ての時間を使ってしまっていないでしょうか。

王であるイエス様が見せてくださった『仕える方法』は、ただ一つです。イエス様は、それを今日の福音でおっしゃっています。「最も小さくされた人々、何かに困っている人々に仕えることが、私に仕えることになる。」とおっしゃっています。私たちはそれをよく分かっています。

あるお年寄りの司祭の説教で聞いた話です。

「私たちは、天国に入るための試験問題の正解を既に全部分かっている。しかしほとんどの人は、おろかにもその正解どおりの生き方をしていない。」

素晴らしい話です。私たちは、みんな分かっています。分かっているのに、できない悩みに囲まれ、たまには自分を責め、なぜ私はこんなに駄目なのかと、嘆いている時があると思います。

分かっているのに難しいのです。自分が握っているものが本物の王ではなくて、偽王であると分かっているのに、握った手から力が抜けないのです。

では、どうすればよいのでしょうか。それは、何回も何回も繰り返し意識することです。自分を洗脳することです。「これでは駄目だ。立ち上がらなければいけない。」という意識を強めるしかないと思います。そして、その意識を持つためには、祈るしかありません。祈る心があれば、正しくこの世の流れ、正しさ、悪さが見えて来ます。しかし信者であるにも関わらず、祈りの生活をしなければ、世界がだましている全てのものがそのまま魅力を持って私たちに近づいて来て、結局、負けます。

王であるキリストが最後に見せた王の品位、輝く姿は、あのように十字架につけられているみすばらしい姿でした。その悲惨な方を私たちは、「王様」と呼び、「あなたを信じます。永遠の命をください。」と願っています。「あの方が本当に私の国の王様です。」という告白が出来たら、それに矛盾がないようにしましょう。その告白にふさわしい私たちの生き方が必要です。もちろん、転びます。倒れます。しかし頑張りましょう。今まで私たちに与えられた機会、チャンスは、たくさんあったと思います。おそらく、これからのチャンスは、今までいただいたチャンスよりは少ないでしょう。でも、その少ないチャンスを活かしましょう。そして出来るだけ、私の手を必要としている人に、手を伸ばそうと頑張りましょう。神様が全部満たしてくださると信じましょう。

ありがとうございました。